

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立愛甲小 学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
	2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
	3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 永瀬 紀子

学校教育目標	学校経営の方針
自律と尊重 ーともに学ぶー	認めあい、学びあい、高めあう学校風土の醸成

今年度の重点目標

【豊かな心】◎互いに認め合い、高め合い、ともに生きていく豊かな心の育成 ○一人一人に応じた指導や支援の充実 ○自他の命を大切にし、子どもの居場所がある学級経営、人間作りの育成  
 【確かな学び】◎課題を正確につかみ自ら解決方法を考え、学ぶことを楽しめる授業づくり ○主体的で対話的な学びの教育とESDの視点での教育課程の実践 ○安心・安全な学習環境づくり  
 【健やかな体】◎多様な運動や体力づくりに安全に楽しく取り組む環境づくり ○健康や食育への意識向上と推進 ○交通安全や防災・防犯などの安全指導の徹底

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
①豊かな心 (支援教育の充実、道徳・人権教育の推進、居場所のある学級経営・人間関係づくり)	2・3	◎学級・学年経営(児童理解、集団づくり、環境整備)の充実 ・すべての職員ですべての児童の実態把握(情報共有、ウォッチング、学年集会) ・支援教育(教育支援会議、個に応じた指導、インクルーシブ教育、他機関との連携)の充実 ・道徳・人権教育(各教科や様々な教育活動、人権週間、いじめ防止・生命尊重の授業)の推進	・ウォッチングを行うことで、児童の支援・指導だけでなく、学級経営についても教員間で連携を図ったり、経験の浅い教員は、他クラスの学級経営から充実した学級経営について学んだりすることができた。 ・支援が必要な児童や困り感のある保護者に対して、組織的に対応することができた。 ・スクールカウンセラーやこころスマイル支援員と連携して、児童や保護者に寄り添った支援を行うことができた。 ・年間を通して、道徳・人権教育を意識して教育活動をおこなった。 ・情報共有(今週の愛甲小)を密に行うことで、児童や学年の実態を把握することができた。	・成長や発達段階に応じた指導の在り方や児童の困り感を分析し、個に応じた適切な働きかけの工夫・改善を行う。 ・児童指導及びケース会議における継続的な審議と会議の在り方の模索を図る。 ・困り感のある児童に対して、個別の対応ができるような支援体制をつくり、組織的に指導に当たるようにしていく。
②確かな学び (学習活動の充実、安心安全な学習環境づくり)	1・3	◎ESDの視点を取り入れた教科指導の計画と推進 ・主体的で対話的な学びに向けた授業改善の推進～自分の考えの根拠を明確にし、相手に伝える力を育む～ ・地域の歴史や自然、人材と触れ合う学習活動の充実と発信 ・児童会活動(異学年交流、児童会行事)の充実	・校内研究と絡めて、児童が自分の考えを表現できるよう、「伝え方マスター」を全校で活用した。また、「伝え方マスター」で型が決まってしまうことによって「生き生きと」表現できない部分もあるため、発達段階に合わせた活用を行った。 ・学校運営協議会や学生・保護者ボランティアに加え、今年度は地域学校協働活動推進委員に協力を要請し、学習活動の充実に努めた。 ・総合的な学習や各教科の学習にESDの視点を取り入れ、活動を行った。来年度も継続して行いたい。 ・各委員会が中心となり、児童会活動を進め、児童会行事やハッピータイムなどを通して異学年交流の充実を図ることができた。	・引き続き、伝え合い活動や学び合いの場の充実を図る。また、高学年は、自分の言葉で伝え合えるように指導をしていく。 ・ESDに関わる指導や保護者ボランティアを募る活動については、見直しをもって計画を立て、全職員で情報共有する。 ・異学年交流のさらなる充実のため、年間計画を見直したり、活動のあり方を見直したりし、一人一人がさらに活躍できるようにする。

<p>③健やかな体 (多様な運動・体力づくりに 楽しく取り組む、健康・食育 の推進、安全指導の徹底)</p>	<p>1・2</p>	<p>◎体力向上を意識した運動チャレンジ活動の実施(委員会との連携) ・健康を守るための習慣と意識付け(手洗いカード、歯磨きカード) ・栄養士と連携した食育の推進 ・安全点検や防災教育の計画的な実施</p>	<p>・児童の委員会活動(保健委員会)を中心に、歯磨きカードなどを作成したり、ハンカチ・ティッシュの携行調査を定期的に行ったりした。カードや調査がある時期は、意欲的に取り組むが、ハンカチ・ティッシュの携行は調査がないと徹底できなくなり取り組み方に課題が残る。 ・児童の委員会活動(体育委員会)で、なわとび旬間やドッジボール大会などの取り組みを行い、運動習慣への意識づけにはつながった。 ・安全点検においては、実情に合わせた点検項目になるよう、今年度から項目を変えて点検を行った。 ・シェイクアウト訓練や水害避難訓練など、定期的に訓練を行い、防災への意識づけができた。</p>	<p>・健康を守るための習慣カードの調査の実施は、次年度も年間を通して定期的に行い、児童が歯磨きやハンカチ携行を習慣化していけるように、委員会活動の中に位置づけていく。 ・運動習慣を継続し、体力向上を意識した取り組みも、今後も児童の委員会活動などの取り組みと関連させて行う。気温が高い時期の取り組みの仕方については、今後検討していく必要がある。 ・不審者訓練や避難訓練を工夫し、様々な場面を想定して行えるようにする。</p>
<p>④校内研究推進</p>	<p>1・2</p>	<p>・国語科の授業研究に向けての企画・推進・取りまとめ ・国語科の指導法についての情報発信 ・伝え合い活動や国語科の教材研究や語彙力の向上等などのテーマに関する研修会の計画・実施</p>	<p>・「自分の考えを分かりやすく表現し、学びあう子～使える言葉を豊かにする指導の工夫～」というテーマのもと、授業研究を中心に研究を進めることができた。 ・国語科の研究1年目ということもあり、伝え合いの場の持ち方や発問の仕方など、教員同士で振り返り、検討しながら研究を重ねてきた。 ・今年度は山梨大学教職大学院の茅野政徳先生を講師に迎え、テーマについての研鑽を積むことができた。</p>	<p>・授業研究において、年度当初に、目指す児童像や伝え合いの仕方を全職員で共有したり、児童の実態調査となるアンケートを行ったりして、系統立てて研究を進めることができるようにする。 ・今年度行った朝学習の時間を活用した語彙力、表現力の向上を来年度も、学校全体で取り組んでいく。</p>

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

担任だけでなく、学校全体で子どもを育ててくれている、先生たちが、子どもに一生懸命・温かく接してくれている、などの好意的なご意見をいただいた。「家庭学習はしているか」「基本的な生活習慣」の評価項目について、年々数値が下がっている為、策を講じた方が良い。また、「学校からのおたより」に関しては、紙媒体だけでなくデータでもほしいとのご意見をいただいたため、改善していく。学校内の施設・設備面でも「清潔でない」「安全でない」との意見をいただいております。老朽化の面は仕方ないが、改善できる所は、改善を図っていきたい。

今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針

- ・「豊かな心」「確かな学び」「健やかな体」の3分野でのグループ会議を行い、重点の確認や具体的取組について、共通理解を図り実践につなげた。
- ・全国学力・学習状況調査をもとに、本校の課題や強みについて共通理解を図り、各学年における課題解決のための具体的手立てについて、検討し、実践してきた。
- ・各グループの重点目標や目標を達成するための具体的な取組などの位置づけを再検討し、共通理解するとともに定期的実践を振り返る機会を設けた。その結果、学校全体を挙げて取組ができるようになった。
- ・グループにおける機能の充実を図り、具体的な取組の検討を推進する。
- ・次年度についても、保護者、地域・地域学校協働活動推進委員と連携しコミュニティスクールを基盤とした地域とともにある学校づくりに努める。